

卓越大学院プログラム 事後評価調査 プログラムの基本情報

【公表。ただし、項目12、13については非公表】

機関名		大阪大学		採択年度	平成30年度	整理番号	1812
1	プログラム名称	生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養					
	英語名称	Transdisciplinary Program for Biomedical Entrepreneurship and Innovation					
	ホームページ (URL)	https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/bei/					
2	全体責任者 (学長)	※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるもの場合は基幹大学）の学長名に下線を引いてください。 ふりがな にしお しょうじろう 氏名 (職名) 西尾 章治郎 (大阪大学学長)					
3	プログラム責任者	ふりがな くまの ごう あつし 氏名 (職名) 熊ノ郷 淳 (大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・研究科長)					
4	プログラムコーディネーター	ふりがな もりい えいいち 氏名 (職名) 森井 英一 (大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授)					
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野				
	関連する領域 (1)【任意】	③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域					
	関連する領域 (2)【任意】						
	関連する領域 (3)【任意】						
6	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)					
	最も関連の深い区分 (中区分)	49	病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野				
	最も関連の深い区分 (小区分)	49010	病態医化学関連				
	次に関連の深い区分 (大区分)【任意】						
	次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	47	薬学およびその関連分野				
	次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	47010	薬系化学および創薬科学関連				
7	授与する博士学位分野・名称	博士 (医学)、博士 (保健学)、博士 (看護学)、博士 (歯学)、博士 (薬科学)、博士 (薬学)、博士 (生命機能学)、博士 (理学)、博士 (工学) 付記する名称：(生命医科学の社会実装プログラム修了)					
8	学生の所属する専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	大阪大学大学院医学系研究科医学専攻、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、大阪大学大学院歯学研究科口腔科学専攻、大阪大学大学院薬学研究科医療薬学専攻、大阪大学大学院薬学研究科創成薬学専攻、大阪大学大学院生命機能研究科生命機能専攻					
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			10 本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 ※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。			
連合大学院				共同教育課程		20	
11 連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)							
Johnson & Johnson Innovation、ファイザー (株)、ノバルティス ファーマ (株)、医薬基盤・健康・栄養研究所、国立医薬品食品衛生研究所、(独) 医薬品医療機器総合機構、大阪府、第一三共 (株)、塩野義製薬 (株)、中外製薬 (株)、日本イーライリリー (株)、タカラバイオ (株)、IQVIAソリューションズジャパン (株)、大塚製薬 (株)、田辺三菱製薬 (株)、シスメックス (株)、(株) クオンタムオペレーション、グローバルライフサイエンステクノロジーズジャパン (株)、EY Strategy and Consulting Co., Ltd.							

[公表]

14 プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	エリート(割合)
	(プログラム責任者)							
1	熊ノ郷 淳	クマノコウ アツシ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授(研究科長)	博士(医学)	内科学, 免疫学	教育プログラム遂行の統括	1
	(プログラムコーディネーター)							
2	森井 英一	モリイ エイチ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	病理学	教育プログラム遂行全体のコーディネート	4
3	坂口 志文	サカグチ シモン		大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・特任教授	博士(医学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
4	審良 静男	アキラ シズオ		大阪大学・先端モダリティ・ドラッグデリバリーシステム研究センター・特任教授	博士(医学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
5	岡村 康司	オカムラ ヤスシ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	生理学	生理学領域における研究実践力の涵養	1
6	河原 行郎	カワハラ コウロウ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	RNA生物学, 神経科学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
7	石井 優	イシイ マサル		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(医学)	免疫学, 細胞生物学	免疫学領域における研究実践力の涵養	0.5
8	Daron Standley	ダーロン スタンドレー		大阪大学・微生物病研究所附属バイオイノベーションクスセンター 教授	博士(化学)	システム免疫学ゲノム情報解析分野	Foster the research ability in bioimaging	1
9	Nicholas Smith	ニコラス スミス		大阪大学・先導的学際研究機構・准教授	Ph. D. Applied Physics	Bioimaging of Immune Response	Foster the research ability in bioimaging	0.5
10	竹田 潔	タケタ ケイジ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
11	島田 昌一	シマダ ショウイチ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	神経科学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
12	佐藤 真	サトウ マコト		大阪大学・大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所・医学専攻・教授	博士(医学)	神経科学, 神経解剖学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
13	原田 彰宏	ハラダ アキヒロ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	細胞生物学	細胞生物学領域における研究実践力の涵養	1
14	加藤 和人	カトウ カズト		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(理学)	生命倫理, 医学倫理, 公共政策	研究を進める上での倫理問題の教育	1
15	服部 聡	ハットリ サトシ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	医学統計学	統計学領域における研究実践力の涵養	1
16	谷内田 真一	ヤチタ シンイチ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	がんゲノム情報学	ゲノム医学における研究実践力の涵養	1
17	下村 伊一郎	シモムラ イイチロウ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	内分泌代謝内科学	内分泌代謝学における研究実践力の涵養	0.5
18	西田 幸二	ニシタ コウジ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	眼科学, 再生医学, 発生生物学	再生医学領域における研究実践力の涵養	0.3
19	貴島 晴彦	キシマ ハルヒコ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	脳神経外科学	神経医学領域における研究実践力の涵養	1
20	猪阪 善隆	イサカ ヨシタカ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	腎臓内科学	腎臓内科領域における研究実践力の涵養	1
21	坂田 泰史	サカタ ヤスシ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	循環器内科学	循環器内科領域における研究実践力の涵養	1
22	竹原 徹郎	タケハラ テツオ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	消化器内科学	消化器内科領域における研究実践力の涵養	0.5
23	岡田 随象	オカダ ユキリ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	遺伝統計学	遺伝統計学領域における研究実践力の涵養	1
24	野々村 祝夫	ノノムラ リウオ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	泌尿器科腫瘍	腫瘍領域における研究実践力の涵養	1
25	今里 聡	イマザト サトシ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	歯科理工学, 生体材料学	生体材料学領域における研究実践力の涵養	1

14 プログラム担当者一覧（続き）								
	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	1700ト (割合)
26	西村 理行	ニシムラ リョウ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士 (歯学)	分子生物学	歯科領域分子生物学における研究実践力の涵養	1
27	川端 重忠	カワバタ シゲタカ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士 (歯学)	微生物学	微生物学領域における研究実践力の涵養	1
28	豊澤 悟	トヨサワ サトル		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士 (歯学)	口腔病理学	口腔病理学領域における研究実践力の涵養	1
29	野田 健司	ノダ ケンシ		大阪大学・歯学研究科附属・口腔科学フロンティアセンター・教授	博士 (理学)	細胞生物学	口腔領域における細胞生物学での研究実践力の涵養	1
30	林 美加子	ハヤシ ミカコ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士 (歯学)	歯科保存学	歯科保存学領域での研究実践力の涵養	1
31	山城 隆	ヤマシロ タカシ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士 (歯学)	歯科矯正学	歯科矯正学領域での研究実践力の涵養	1
32	仲野 和彦	ナカノ カズヒロ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士 (歯学)	小児歯科学, 臨床口腔細菌学	小児歯科領域での研究実践力の涵養	1
33	長島 正	ナガシマ タカシ		大阪大学・歯学部附属歯学教育開発センター・教授	博士 (歯学)	歯科医学教育学	教育システムを通じた社会実装力の涵養	1
34	赤井 周司	アカイ シュウジ		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士 (薬学)	有機化学, 医薬品化学	有機薬化学領域での研究実践力の涵養	1
35	水口 裕之	ミズグチ ヒロユキ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成药学専攻・教授	博士 (薬学)	分子生物学	分子生物学領域における研究実践力の涵養	0.5
36	小比賀 聡	オビガ サトシ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成药学専攻・教授	博士 (薬学)	核酸化学, 生物有機化学	核酸化学領域における研究実践力の涵養	0.5
37	辻川 和丈	ツジカワ カズタケ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成药学専攻・教授	博士 (薬学)	細胞生理学	細胞生理学領域における研究実践力の涵養	0.5
38	堤 康央	ツツミ ヤスオ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成药学専攻・教授	博士 (薬学)	毒性学	毒性学における研究実践力の涵養	1
39	橋本 均	ハシモト ヒトシ		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士 (薬学)	分子神経薬理学	薬理学領域における研究実践力の涵養	1
40	中川 晋作	ナカガワ シンサク		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士 (薬学)	生物薬剤学	薬剤学領域における研究実践力の涵養	1
41	藤尾 慈	フジオ ヤスシ		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士 (医学)	分子循環薬理学, 臨床薬理学, 循環器内科学	循環器学領域における研究実践力の涵養	0.5
42	荒尾 晴恵	アラウ ハルエ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (看護学)	がん看護学, 緩和ケア	がん看護学領域における研究実践力の涵養	1
43	近江 雅人	オウミ マサト		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (工学)	生体医用光学	生物医用工学領域における研究実践力の涵養	1
44	石田 隆行	イシダ タカユキ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (工学)	医用画像工学	画像工学領域における研究実践力の涵養	1
45	神出 計	カミデ ケイ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (医学)	老年医学, 生活習慣病, 公衆衛生学	老年医学領域における研究実践力の涵養	1
46	山本 浩文	ヤマモト ヒロフミ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (医学)	癌の診断と治療	腫瘍診断領域における研究実践力の涵養	1
47	辻川 元一	ツジカワ モトカズ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (医学)	再生医学	再生医学領域における研究実践力の涵養	1
48	尾路 祐介	オノ ユウスケ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (医学)	腫瘍生物学, 腫瘍免疫学	腫瘍免疫学領域における研究実践力の涵養	1
49	三善 英知	ミヨシ エイジ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (医学)	臨床検査学	臨床検査学領域における研究実践力の涵養	1
50	高橋 正紀	タカハシ マサノリ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (医学)	臨床神経生理学	神経生理学領域における研究実践力の涵養	1
51	福地 一樹	フクチ カズキ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (医学)	放射線診断学	放射線診断学領域における研究実践力の涵養	1
52	清水 安子	シミズ ヤスコ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (看護学)	慢性疾患看護学	慢性疾患看護学領域における研究実践力の涵養	1

14 プログラム担当者一覧（続き）

氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	リポート (割合)
53 木原 進士	キハラ シンジ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士 (医学)	臨床検査医学	臨床検査医学領域における研究実践力の涵養	1
54 近藤 滋	コトウ シゲル		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (医学)	数理生物科学	数理生物学領域における研究実践力の涵養	0.5
55 八木 健	ヤギ タケシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (理学)	神経科学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
56 北澤 茂	キタザワ シゲル		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (医学)	神経科学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
57 長澤 丘司	ナカザワ タカシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (医学)	免疫学, 血液学, 幹細胞生物学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
58 井上 康志	イノウエ ヤスシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (工学)	ナノ・バイオ フォトニクス	光生物学領域における研究実践力の涵養	1
59 深川 竜郎	フカガワ リウロウ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (理学)	分子細胞生物学	分子生物学領域における研究実践力の涵養	1
60 上田 昌宏	ウエタ マサヒロ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (理学)	生物物理学, 細胞生物学	生物物理学領域における研究実践力の涵養	1
61 倉橋 隆	クラハシ タカシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (理学)	神経生理学	神経生理学領域における研究実践力の涵養	0.5
62 木村 真一	キムラ シンイチ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (理学)	物性物理学	物性物理学領域における研究実践力の涵養	1
63 佐々木 洋	ササキ ヒロシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士 (理学)	発生生物学	発生生物学領域における研究実践力の涵養	1
64 松浦 善治	マツウラ ヨシハル		大阪大学・感染症総合教育研究拠点・特任教授	博士 (獣医学)	ウイルス学	ウイルス学領域における研究実践力の涵養	1
65 荒瀬 尚	アラセ ヒサシ		大阪大学・微生物病研究所・教授	博士 (医学)	免疫学, 微生物学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
66 原 英二	ハラ エイジ		大阪大学・微生物病研究所・教授	博士 (理学)	分子腫瘍学	分子腫瘍学領域における研究実践力の涵養	1
67 山本 雅裕	ヤマモト マサヒロ		大阪大学・微生物病研究所・教授	博士 (医学)	寄生虫免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
68 山崎 晶	ヤマザキ ショウ		大阪大学・微生物病研究所・教授	博士 (農学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
69 鈴木 一博	スズキ カズヒロ		大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・教授	博士 (医学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
70 國澤 純	クニザワ ジュン		医薬基盤・健康・栄養研究所・医薬基盤研究所・ヘルス・メディカル微生物研究センター・センター長	博士 (薬学)	免疫創薬学	免疫創薬学領域における研究実践力の涵養	1
71 今井 由美子	イマイ ユミコ		医薬基盤・健康・栄養研究所・医薬基盤研究所・ヘルス・メディカル微生物研究センター・副センター長	博士 (医学)	ウイルス・エ ピゲノム・集 中治療	ウイルス学領域における研究実践力の涵養	1
72 原 健記	ハラ タケキ		ノバルティスファーマ株式会社・エクスターナル イノベーション推進室長	MBA 学士(薬学)	社会実装学	社会実装教育における講義および実習指導	1
73 十河 真司	ソゴウ シンジ		大塚製薬株式会社・研究管理部・ディレクター	博士 (医学)	血液学, 免疫学	社会実装教育における講義および実習指導	1
74 坂田 恒昭	サカタ ツネアキ		大阪大学共創機構・特任教授	博士 (医学)	分子生物学,創 薬イノベーション, オープンイ ノベーション	社会実装教育における講義および実習指導	1
75 清水 剛志	シミス タケシ		EY Strategy and Consulting Co., Ltd., Health Sciences & Wellness, Partner	修士 (Health Sciences & Wellness)	Health Sciences & Wellness	社会実装教育における講義および実習指導	0.5
76 池田 純子	イケダ ジュンコ		大阪府・政策企画部・成長戦略局長		産業振興	社会実装教育における講義および実習指導	0.5

14 プログラム担当者一覧（続き）

氏名		フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	リポート (割合)
77	楠 淳	カスネ ジュン		Johnson & Johnson Innovation - Asia Pacific Innovation Center Senior Director, Japan Country Lead	博士 (薬学)	研究シーズ育 成等	社会実装教育における講義お よび実習指導	1
78	金田 安史	カナダ ヤスミ		大阪大学・理事・副学長	博士 (医学)	遺伝子治療学	教育プログラム遂行に関する 助言	1
79	石井 泰子	イシイ タエコ		日本イーライリリー株式会社 研究開発・メディカルアプ ェアーズ統括本部 自己免疫領 域本部・臨床薬理・エグゼク ティブディレクター・メディ カル・リードCRP	博士 (医学)	医薬品臨床開 発 メディカルア プェアーズ	社会実装教育における講義お よび実習指導	0.5
80	加藤 和磨	カトリ カズマ		株式会社クオンタムオペレー ション・代表取締役	学士 (経営学)	経営学	プログラム学生の研究成果を 迅速にまた効果的に社会に還 元していくための社会実装の 涵養を育みだす教育・研究指 導	0.5
81	目加田 英輔	メカダ エイスケ		学際大学院機構・特任教授	博士 (医学)	細胞生物学	学生獲得, 講義, 研究発表会 等の指導など運営全般業務	100
82	本坊 恭子	ホンボウ キョウコ		学際大学院機構・准教授	博士 (学術)	人口学, 国際化教育	社会実装教育のコーディネー ト及び産学連携業務	60
83	山田 憲明	ヤマタ ノリアキ		学際大学院機構・特任助教	博士 (医学)	循環器内科学	学生のメンター, 履修学生へ の社会実装教育実習の指導, QE準備の指導業務	100
84	井上 豪	イノウエ ユウシ		大阪大学・大学院薬学研究 科・創成薬学専攻・教授	博士 (工学)	創成薬学	生体構造機能分析学領域にお ける研究実践力の涵養	0.5
85	有澤 光弘	アリザワ ミツヒロ		大阪大学・大学院薬学研究 科・創成薬学専攻・教授	博士 (薬学)	創成薬学	医薬合成化学領域における研 究実践力の涵養	1
86	齊藤 達哉	サイトウ タツヤ		大阪大学・大学院薬学研究 科・医療薬学専攻・教授	博士 (薬学)	医療薬学	生体応答制御学領域における 研究実践力の涵養	0.5
87	加藤 隆史	カトリ タカフミ		大阪大学・大学院歯学研究 科・口腔科学専攻・教授	博士 (歯学)	口腔生理学	口腔生理学領域における研究 実践力の涵養	1
88	近藤 昌夫	コンドウ マサオ		大阪大学・大学院薬学研究 科・附属実践薬学教育研究セ ンター・教授	博士 (薬学)	環境薬学, 衛生薬学	医薬品・医療機器規制科学に おける研究実践力の涵養	1
89	北川 正成	キタカワ マサナリ		タカラバイオ株式会社・参事	博士 (農学)	バイオサイエ ンス	社会実装教育における講義お よび実習指導	1
90	西尾 禎治	ニシオ テンジ		大阪大学・大学院医学系研究 科・保健学専攻・教授	博士(医 学) 博士(理)	医学物理学	医学物理学領域における研究 実践力の涵養	0.5
91	吉光 淳一郎	ヨシミツ ジュンイチロウ		ファイザーR&D合同会社・ク リニカル・リサーチ統括部オ ンコロジー領域部・Japan Clinical Leader	修士 (薬学)	オンコロジー臨 床開発	社会実装教育における講義お よび実習指導	0.5
92	檜杖 昌則	ヒツヅエ マサノリ		ファイザーR&D合同会社・非 臨床開発研究部・主幹研究員	博士 (薬学)	非臨床開発	社会実装教育における講義お よび実習指導	0.5
93	ペレ・ステファン・ ドミニク・ポル	ペレ・ステファン・ ドミニク・ポル		グローバルライフサイエンス テクノロジーズジャパン株式 会社・代表取締役	博士 (医学)	経営	社会実装教育における講義お よび実習指導	0.5
94	日比野 浩	ヒビノ ヒロシ		大阪大学・大学院医学系研究 科・医学専攻・教授	博士 (医学)	薬理学, 生理学, 聴覚	薬理学, 生理学, 聴覚領域に おける研究実践力の涵養	0.5
95	田熊 一敏	クマ カズヒロ		大阪大学・大学院歯学研究 科・口腔科学専攻・教授	博士 (歯学)	薬理学	薬理学領域における研究実践 力の涵養	1
96	池田 賢二	イケダ ケンジ		大阪大学大学院薬学研究科・ 附属実践薬学教育研究セン ター・教授	博士 (薬学)	医療薬学	医療薬学領域における研究実 践力の涵養	0.5
97	福澤 薫	フクザワ カオリ		大阪大学大学院薬学研究科・ 医療薬学専攻・教授	博士 (工学)	計算生命科 学, 量子化学	計算生命科学, 量子化学領域 における研究実践力の涵養	0.5
98	神尾 祥子	カンオ ショウコ		塩野義製薬株式会社・医薬研 究本部・プロジェクトマネジ メント部長	修士 (薬学)	医薬品開発及 びポートフォリ オマネジメント	社会実装教育における講義お よび実習指導	0.5

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名		フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	エフォート(割合)
99	相原 祐希	アイハラ ユウキ		シスメックス株式会社・技術戦略本部・R&D戦略部・課長	修士(生命科学)	分子生物学, 医学	社会実装力の涵養	0.5
100	大庭 伸介	オオハ シンスケ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(医学)	口腔組織・発生学	口腔組織・発生学における研究実践力の涵養	0.5
101	深田 宗一郎	フカダ ソウイチロウ		大阪大学大学院薬学研究科・創成薬学専攻・教授	博士(薬学)	再生適応学	再生適応学領域における研究実践力の涵養	0.5
102	高石 巨澄	タカシ キョウミ		第一三共株式会社・研究イノベーション推進部・主席	修士(工学) 博士(理学)	希少疾患治療薬の前臨床薬理	社会実装教育における講義および実習指導	0.5
103	猿田 邦夫	サルタ ケンオ		田辺三菱製薬株式会社・創薬本部創薬企画部・主席	博士(理学)	オープンイノベーション	プログラム学生の研究成果を迅速にまた効果的に社会に還元していくための社会実装の涵養を育みだす教育・研究指導	0.5
104	本間 正充	ホンマ マサミツ		国立医薬品食品衛生研究所・所長	博士(医学)	分子生物学, 分子遺伝学, 毒性学	社会実装教育における講義および実習指導	0.5
105	高岡 裕美	タカオカ ヒロミ		大阪大学・大学院医学系研究科・メディカルヘルスケア知財戦略室・特任教授(兼)共創機構・イノベーション戦略部門知的財産室(医学系分室担当)・室長	学士(薬学) MBA	知的財産	社会実装教育における講義および実習指導	0.5
106	荒井 雅吉	アライ マサヨシ		大阪大学大学院薬学研究科・創成薬学専攻・教授	博士(薬学)	天然物創薬学	天然物創薬学領域における研究実践力の涵養	0.5
107	池田 史代	イケダ フミヨ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能学専攻・教授	博士(歯学)	分子細胞生物学	分子生物学領域における研究実践力の涵養	0.5
108	北澤 剛久	キタザワ タケヒサ		中外製薬株式会社・研究本部・創薬薬理第二研究部長	博士(理学)	血液学	社会実装教育における講義および実習指導	0.5
109	丸山 良亮	マルヤマ ヨシアキ		独立行政法人医薬品医療機器総合機構・再生医療製品等審査部・部長	博士(理学)	レギュラトリーサイエンス	社会実装教育における講義および実習指導	0.5

成果の概要【2ページ以内】

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

大阪大学は研究科の枠を超えた分野横断的な教育を強力に推し進める大学院改革を目指し、2018年、専門性を究める知の探究に加え、学際研究を推進する知と知の融合、社会課題を解決する社会と知の統合という異なるベクトルの双翼型大学院教育システム（Double-Wing Academic Architecture, DWAA）を提唱した。同年、この DWAA を具現化すべく、社会と知の統合を目指す新たな教育プログラムとして採択されたものが本卓越大学院プログラムである。本プログラムは大学院改革の旗頭としての役割を担っており、総長のリーダーシップのもと学際大学院機構（旧国際共創大学院学位プログラム推進機構）の一部門として運営されている。本プログラムでは絶対的な研究実践力の涵養と研究成果の社会実装力を兼備し、将来、研究開発エコシステムをまわすことのできる博士人材を育成する主専攻型学位プログラムが確立された。本プログラムの教育理念の根幹は、社会と知の統合によってもたらされる研究開発エコシステムで、大学本来の自由な発想による研究を行い、その成果を社会で実装し、その過程で明確になった課題を再び大学に還元し教育研究を発展させて、知・人材・資金の好循環を生み出すというものである。この理念は、当初は本プログラムのみで共有されていたものであったが、現在では全学展開され、「OU（Osaka University）エコシステム」として大阪大学の基本活動方針となった。このことは本プログラムの理念を大学全体に水平展開できたことを示している。本プログラムは、ライフサイエンス系の研究科の壁を超え、さらに社会のさまざまなステークホルダーも教育に携わる大学と社会の壁をも超えて運営されている学位プログラムである。本プログラムの理念、教育内容をライフサイエンス系にとどまらず、理工情報系、人文社会科学系を含めたすべての研究科の枠を外して全学展開したものが、現在大阪大学で進めている次世代挑戦的研究者育成プロジェクトである。このプロジェクトでは本プログラムをロールモデルに教育理念を全学へ展開し、学際大学院機構の中に次世代研究者育成推進部を設置し、人文社会科学系も含めた全学的な大学院改革を図っており、本プログラムのプログラムコーディネーターが事業統括を務めている。このことは本プログラムが大阪大学における大学院改革の旗頭としての役割を果たしたことを示している。

② 計画通り進んでいる事項

本プログラムでは、当初策定された計画を着実に実行し、目標とする指標を上回った成果を得ている。本学の医学系研究科（医学専攻、保健学専攻）、歯学研究科、薬学研究科、生命機能研究科に合格した学生を対象に独自の選抜試験を行い、その結果、申請時の予想を超え、学部卒の新卒者をはじめ、メガファーマやベンチャー企業での社会人経験者、現役医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、検査技師、国外大学での学位取得者、留学生など、多様で優秀な人材を受け入れることができた。それと同時に、連携機関から多様なバックグラウンドを持つ教員が参画しており、学生と教員が各々の専門分野、経験に基づいた意見を交わすことで正の効果が生まれている。カリキュラムは複数の教育コンテンツ（モジュール）に分かれており、研究実践力を身に付けるための所属研究科固有の教育モジュールと、社会実装力を養うための研究科共有の横断的教育（社会実装教育）モジュールで構成される。社会実装教育モジュールの全ては、異なる研究科の学生とともに学習し、他専攻、他業界について触れ理解を深める教育内容になっており、学外の研究所や企業を訪問する場といった専攻外との交流が整備され、外部評価委員および連携機関との意見交換会を参考に毎年改善を重ねている。教育活動の成果を示す本プログラム独自の修了審査では、学生は自ら学位論文研究の社会実装案を書面・口頭にて発表し、本プログラム教務委員会から選出された本学教員および学外プログラム担当教員により厳しく合否判定され、これまでに早期修了者を含む第1期生を輩出している。この修了審査では

投資家の視点からの意見も学生にフィードバックされており、本プログラムの目指す研究実践力と社会実装力を兼ね備えた人材の育成を現場感覚で行っている。 Nature や Science といった国際的トップジャーナルへの掲載や学会での優秀発表賞の受賞のみならず、「未来博士 3 分間コンペティション」での受賞など、本プログラムでの活動の顕著な成果が見られ、優秀な修了生たちの将来性が期待される。日本学術振興会育志賞を本プログラムに所属する複数の学生が受賞しており、他にも多数の多彩な賞をプログラム生は受けており、卓抜した知のプロフェッショナルを養成する体制を構築することができている。

③ 改善が必要な事項

履修生の日頃の研究分野の専門性を超えた指導・助言と、アカデミック活動以外の相談役として、上級生をジュニアメンター、特任教員をシニアメンターとする 3 層体制となるメンター制度を敷いているが、プログラム生全員が十分に本制度を活用できてはいなかった。そこで今後は、メンター制度を本プログラム教育のコアとし、履修生の教育活動や、履修生・学内外教員・企業人・修了者などの本プログラム関係者の交流を支援するシステムとして配置するといった有意義な活用の検討を行っている。また、コロナ禍でオンラインでの授業や交流が主流になり、本プログラムの教育形態にハイブリッド形式など建設的な第三の道を見出し確立することを行なった。このオンライン文化の出現により交流を加速しメリットも確認できており、例えば本プログラムを辞退せず留学もできるような対応も今後可能と考えている。以上のようにプログラム運営で見出された課題も解決されつつある。

④ プログラムとしての今後の見通し

概ね申請時の計画を達成しており、カリキュラムおよび単位対象科目の設定、科目内容の整備、およびプログラム・カレンダーが構築されている。履修生の在籍する医学系研究科（医学専攻、保健学専攻）、歯学研究科、薬学研究科、生命機能研究科との連携による綿密な体制が整備されており、本プログラム事務局と参画研究科事務局、そして各研究科の教員への連絡といった教育連携体制が敷かれている。また、参画研究科教員で構成する本プログラムの運営委員会および教務委員会が設置されている。優秀な履修生、連携機関、外部評価委員をはじめとし、本プログラムに対する建設的な改善案も反映してきたことで、第 1 期生に続く優秀な修了生を輩出できる見込みである。同時に、本プログラムの特任教員は自ら社会実装教育を受け、学生への講義も既に開始しており、補助期間終了後も継続して社会実装教育が提供できる体制を整えている。本プログラムは大学全体の大学院改革の先導的な役割を果たしており、教育担当統括理事を機構長、理事・副学長を副機構長とする学際大学院機構の一部門としてすでに根付いている。本プログラムの教育理念を全学へ展開し、人文社会科学系を含む本学全研究科から博士後期課程学生が集結する新たなプログラム、およびその他のプログラムとも連携しながら、大阪大学における社会実装教育の先端的役割を担っていく。日本にはよいサイエンスがあるが実装にくい現実がある。卓越大学院という企業とのコンソーシアムができあがり、現実的に研究開発エコシステムの循環に貢献する博士人材につなげていくためには、オープンイノベーション人材なども、出口像の一つのロールモデルになりうる。大学・企業の研究者だけでなく、繋ぎ目という観点で VC、インキュベーター、シーズの生み出しを支援するような方々もプログラムと連携し、橋渡し役になれる素養を持つ学生たちが将来活躍できる場作りも合わせ検討していく。学生の各自の強みを尊重すべく、プログラム設計として出口を見据え、「多様な博士人材のキャリアサポート教育」という要素を強化していく。また、本プログラムの理念を水平展開して体現させた学際大学院機構に本プログラムは分野連携学位プログラムとして内在化される予定で、学際大学院機構内に配置された承継ポストへ本プログラムの教員が移行しつつある。